

Всматриваясь в Сахалин.

後藤悠樹ミニ写真展「サハリンを見つめて」 & 写真文集『サハリンを忘れない』刊行記念トーク 後藤悠樹×ディン・ユリア×韓恵仁

(サハリン州立郷土博物館) (成均館大学東アジア歴史研究所)

サハリンの「残留邦人」を長年見つめてきた写真家、後藤悠樹氏をお招きし、サハリンの歴史と現在を語るトークイベントを開催します。

第二次世界大戦以後、サハリンには様々な理由で残留した日本人や、コリアン、ロシア人といった多様な民族が調和的に共存してきました。

本トークは特定の「国家」や「民族」、「歴史」を政治的にみるのではなく、激動の歴史の中を生き抜き多様な社会を築きあげた個人の歴史に注目し、ロシア人と韓国人の研究者とともに討論します。

あわせて後藤氏がサハリンで撮り続けた作品を展示するミニ写真展も開催します。



後藤悠樹プロフィール

1985年大阪生まれ。日本写真芸術専門学校卒業。
NPO法人日本サハリン協会会員。2006年よりサハリンに通い始める。広告写真家のアシスタント、アパレルカメラマンを経て現在、写真館勤務。著書に『サハリンを忘れない(DUBOOKS)』、『サハリン残留(著 玄武岩・パイチャゼ・スヴェトラナ/ 写真 後藤悠樹) 高文研』。2018年10月、サハリン州立美術館で写真展「サハリンを見つめて」を開催。

サハリンを忘れない

日本人残留者たちの見果てぬ故郷、永い記憶

文・写真
後藤悠樹

現地で10年以上
取材を続けた
若手写真家
渾身のドキュメント。

戦後70年、ロシア・サハリン(樺太)では、多くの日本人が現在も暮らし続けている。過酷な境遇を生き抜いた彼らの顔、表情、そして、日々の営み。

【ノンフィクション】

会場 北海道大学総合博物館 (札幌市北区北10条西8丁目)

日時 トーク : 2018年11月29日(木)16:00~18:00

ミニ写真展 : 2018年11月29日(木)~12月2日(日)

主催 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院

メディアと観光スポットにおける植民地時代、戦争・平和のイメージ:

「地域」と「国家」の記憶格差の考察(中国、台湾、サハリン、日本、韓国、ベトナムを事例に)

*問い合わせ*パイチャゼ スヴェトラナ eメール/svetaalvarez@imc.hokudai.ac.jp, 内線: 6934